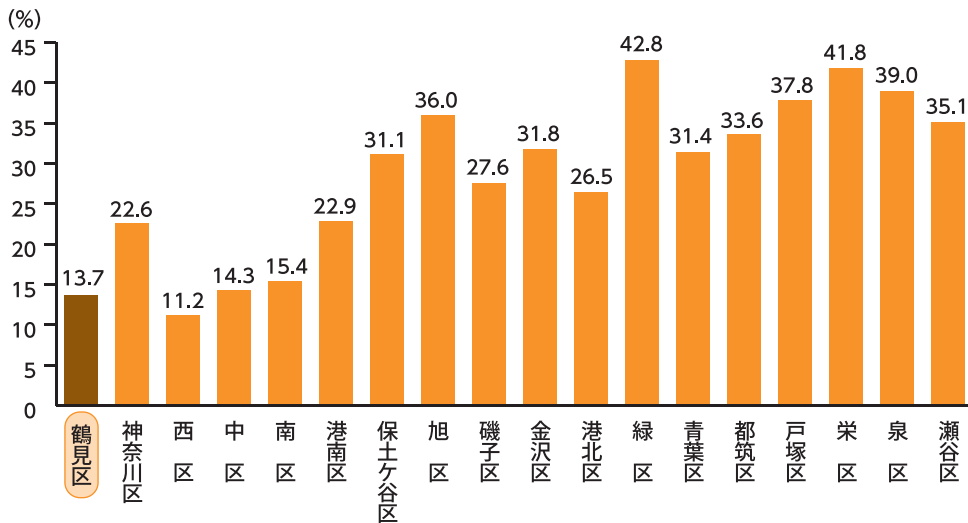
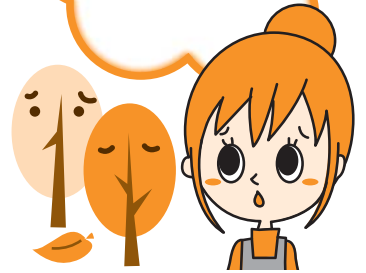


# 環境

## 緑被率 (平成21年調査)

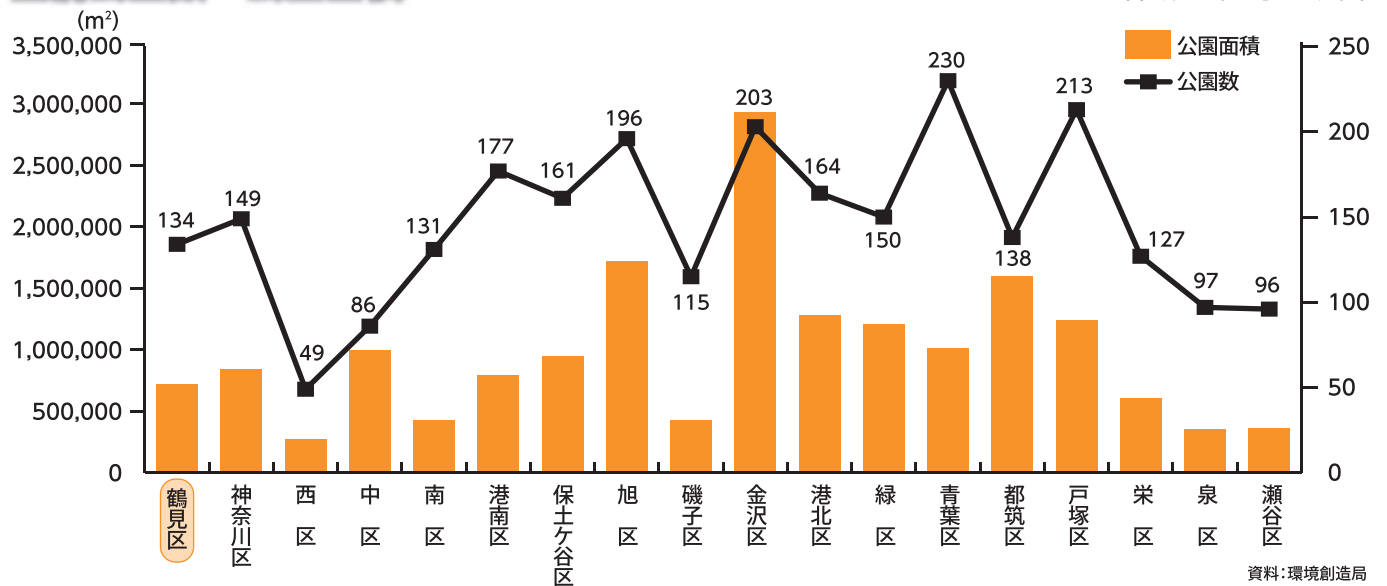


鶴見区の緑被率は、18区中17位です。鶴見区の緑被率は、年々減少傾向にあります。



## 区別公園数・公園面積 (※県立公園含む)

(平成24年7月1日現在)



資料:環境創造局

鶴見区には、平成24年7月1日現在、134の公園があり、その面積は719,297m<sup>2</sup>となっています(県立公園含む)。そのうち、県立公園である三ツ池公園が、区内の公園面積の約4割を占めています。

## 鶴見川について

鶴見川は、全長42.5キロメートル、横浜市内唯一の一级河川で、多摩丘陵の山中の源流から、区内を北から南になだらかに蛇行しながら流れ、東京湾に注いでいます。

流れが緩やかで水量が豊かなことから、古くから流域の水運に使われ、内陸部の農産物は地先の河岸から河口に運ばれ、外からの物資もまた鶴見川によって内陸部に運ばれ、川筋はたいへん賑わいました。しかし、勾配がなだらかなため、満潮時には、海水が鶴見川を逆流し、農業用水には適していませんでした。そのため、駒岡、末吉などの鶴見川西側ではため池を作って、田に水を引いていました。現在も残る二ツ池、三ツ池は当時のため池です。対岸の矢向、市場などでは、多摩川から引いた二ヶ領水路を農業用水として使用していました。

また、ひとたび大雨が降ると洪水を繰り返してきたため、昔から「暴れ川」と呼ばれ、流域の人々の生活や命をおびやかしてきましたが、現在では、護岸整備が進み、昭和57年の台風18号による氾濫以降、大規模な被害は発生していません。近年は、流域の都市化に伴い、工場や生活排水等により、鶴見川の汚染が進みましたが、現在、川をきれいにしようと環境保全活動が進んでいます。

